

研究会「生きる力を育むには？：学術と現場のコラボレーションに向けて」を開催しました (2015/7/24)

テーマ：災害研究，学際研究，生きる力
会場：東北大学災害科学国際研究所

7月24日（金）に，当研究所のセミナー室にて「生きる力を育むには？：学術と現場のコラボレーションに向けて（第4回災害・認知・脳研究会）」と題する研究会を開催しました。当研究所では，東日本大震災が発生して以降，『生きる力』プロジェクトを行っています。同プロジェクトでは，これまでの研究で災害の克服に有利な個人の性格・考え方・習慣として，8つの主要因子を明らかにしました。この度，今後「生きる力」を育む研究への本格的な着手に向けて，キックオフとなる上記の研究会を開催しました。第1部ではプロジェクトの最新の研究成果を紹介し，第2部では本研究に関係の深い教育・訓練の現場の方々から，プロジェクトの今後の課題について提案をいただく形式としました。当研究所関係者の発表は，次のとおりです：

- 第1部 生きる力8因子に関する基礎研究成果
災害を生きる力の8因子と津波避難行動
 杉浦元亮准教授（人間・社会対応研究部門）
「生きる力」は個人の生活再建・復興の原動力になり得るか
 佐藤翔輔助教（情報管理・社会連携部門）
災害研究における産学官連携へ向けた留意点—研究倫理の厳格化を背景に
 野内類助教（人間・社会対応研究部門）
- 第2部 生きる力8因子の応用研究に向けて
8つの生きる力を持つ人材育成—生きる力の覚醒、成長を促すテッパンツールを
 保田真理助手（災害リスク研究部門）
過去の津波における死亡率の研究—生存の環境・人的要因の検討
 サッパシー・アナワット准教授（災害リスク研究部門）
災害類型や災害サイクルによる「生きる力」の適用限界と発展性
 佐藤健教授（情報管理・社会連携部門）

第1部の座長は杉浦准教授が，第2部の座長は野内助教がつとめ，邑本俊亮教授（人間・社会対応研究部門）が閉会の挨拶を行いました。研究会中は，活発な質疑応答がなされ，盛会となり，今後の新たな研究・実装展開に大きな示唆を得た会合となりました。



杉浦元亮准教授



佐藤翔輔助教



野内類助教



保田真理助手



サッパシー アナワット准教授



佐藤健教授

文責：佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）